

街の活力は  
自立と創造から

# あのまちこの街

編集 北海道商店街振興組合連合会  
〔あのまちこの街 編集委員会〕  
札幌市中央区北1条西2丁目

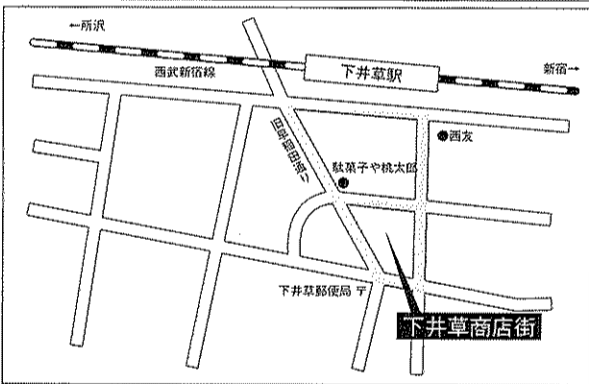


## 下井草 商店街振興組合 (東京都杉並区)

東京杉並区・下井草。昭和二年、この地に西武新宿線が開通し、駅前を走る商店街が形成された。戦後の昭和二十一年、中絶していた商店街活動が再開。駅前、桜の木の下で、有志による盆踊り大会が盛大に行われた。同二十二年に下井草マーケット、二十四年にはミドリヤアーケードという共同店舗がそれぞれ出店。売り出しにしのぎを削り、この地区が賑わいを増してきた。

昭和二十六年、「下井草商友会」が発足。同三十二年には春の謝恩売り出し、中元・歳末の祝い、約八百以上の商品が並び、賑わいを増してきた。

昭和二十六年、「下井草商友会」が発足。同三十二年には春の謝恩売り出し、中元・歳末の祝い、約八百以上の商品が並び、賑わいを増してきた。



複数の街路で形成される下井草商店街



「桃太郎」店内の棚上にはアンパンマングッズ

この夏、都内最後の駄菓子屋「桃太郎」が姿を消した。荒川区の「駄菓子屋横町」だ。JR日暮里駅東口前から小さな路地に並んでいた木造長屋の店舗群は、高層ビルに生まれ変わるため取り壊された。駄菓子屋横町は、終戦直後の開市から発展してきた。関東各地の駄菓子屋が仕入れに訪れ、最盛期の昭和三十年代前半には九十七軒もの問屋が軒を連ねた。しかし少子化で駄菓子屋が次第に姿を消すとともに、問屋も急減。閉鎖時には七軒が残るだけだった。平成十九年に開通予定の新交通システム「日暮里・舎人線」(とねり線)整備に伴い、翌二十年二月には日暮里駅前三棟の高層ビルが建つ。駄菓子屋横町も地上約百間に生まれ変わる。

昭和二年、この地に西武新宿線が開通し、駅前を走る商店街が形成された。戦後の昭和二十一年、中絶していた商店街活動が再開。駅前、桜の木の下で、有志による盆踊り大会が盛大に行われた。同二十二年に下井草マーケット、二十四年にはミドリヤアーケードという共同店舗がそれぞれ出店。売り出しにしのぎを削り、この地区が賑わいを増してきた。

昭和二十六年、「下井草商友会」が発足。同三十二年には春の謝恩売り出し、中元・歳末の祝い、約八百以上の商品が並び、賑わいを増してきた。

「桃太郎」があるのは西武新宿線下井草駅から徒歩三分のところ。同商店街のメイン通りの角地に位置する。青果店ができた。同十年、事業を本格的に展開する頃には二十店以上となるようになった。「下井草共栄会」という任意会を形成した。「感謝の日」(毎月二十八日)は、現在も戦後の昭和二十一年頃、中絶していた商店街活動が再開。駅前、桜の木の下で、有志による盆踊り大会が盛大に行われた。同二十二年に下井草マーケット、二十四年にはミドリヤアーケードという共同店舗がそれぞれ出店。売り出しにしのぎを削り、この地区が賑わいを増してきた。

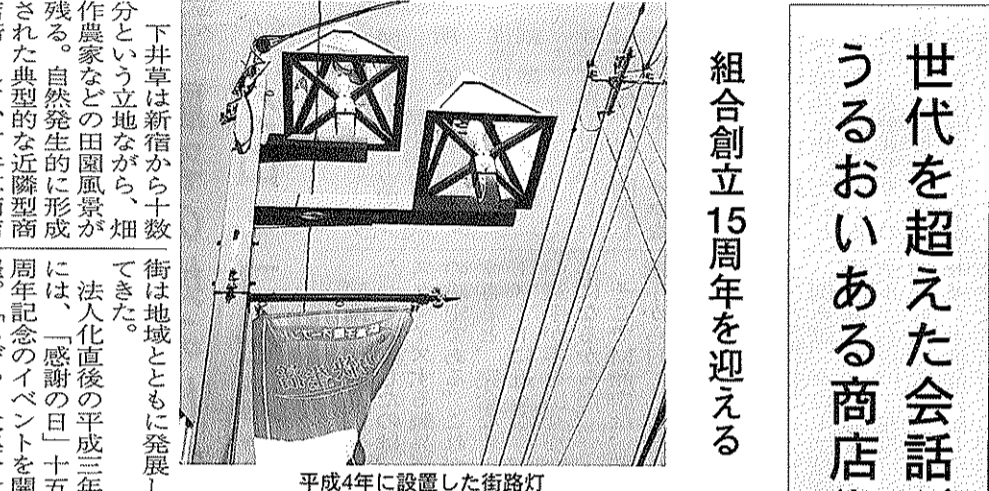
「桃太郎」で親しみと潤いのある商店街の復活を期している。昭和二十一年頃、中絶していた商店街活動が再開。駅前、桜の木の下で、有志による盆踊り大会が盛大に行われた。同二十二年に下井草マーケット、二十四年にはミドリヤアーケードという共同店舗がそれぞれ出店。売り出しにしのぎを削り、この地区が賑わいを増してきた。

「桃太郎」で親しみと潤いのある商店街の復活を期している。昭和二十一年頃、中絶していた商店街活動が再開。駅前、桜の木の下で、有志による盆踊り大会が盛大に行われた。同二十二年に下井草マーケット、二十四年にはミドリヤアーケードという共同店舗がそれぞれ出店。売り出しにしのぎを削り、この地区が賑わいを増してきた。

このほかホームページ「ザ・下井草」、買い物支援ボランティア事業が対象となっている。地域の資源を活用することで、下井草商店街ならではの話題づくりを続けている。

## 空き店舗で駄菓子屋を直営

### 地元産野菜の店頭販売など地域への話題提供を続ける



平成4年に設置した街路灯

下井草は新宿から十数分という立地ながら、畑作農家などの田園風景が残る。自然発生的に形成された典型的な近隣型商店街として、下井草商店街は地域とともに発展してきた。

法人化直後の平成三年には、「感謝の日」(毎月二十八日)は、現在も戦後の昭和二十一年頃、中絶していた商店街活動が再開。駅前、桜の木の下で、有志による盆踊り大会が盛大に行われた。同二十二年に下井草マーケット、二十四年にはミドリヤアーケードという共同店舗がそれぞれ出店。売り出しにしのぎを削り、この地区が賑わいを増してきた。

世代を超えた会話がはずみうるおいある商店街復活へ

組合創立15周年を迎える

と銘打ち、大道芸、綱引き大会、餅つき、模擬店などで賑わいを見せた。平成四年には、総事業費四千四百万円で街路灯を建設。補助金三千六百万円と借入金で賄い、平成十五年に返済を終えた。今年二月には、振興組合創立十五周年の記念式典を行った。

数百年にのぼる商品が並び、店内狭しと並んでいる。孫連れのお年寄り、遊びに行く途中の小学生、買い物ついでの若い主婦らで賑わっている。

「桃太郎」があるのは西武新宿線下井草駅から徒歩三分のところ。同商店街のメイン通りの角地に位置する。青果店ができた。同十年、事業を本格的に展開する頃には二十店以上となるようになった。「下井草共栄会」という任意会を形成した。「感謝の日」(毎月二十八日)は、現在も戦後の昭和二十一年頃、中絶していた商店街活動が再開。駅前、桜の木の下で、有志による盆踊り大会が盛大に行われた。同二十二年に下井草マーケット、二十四年にはミドリヤアーケードという共同店舗がそれぞれ出店。売り出しにしのぎを削り、この地区が賑わいを増してきた。

営業時間延長も検討

「駄菓子屋 桃太郎」を狙っており、その成果は着実に現れている。駄菓子という単価の低い商品にもかかわらず、オーブン初日に六万円の売り上げがあった。また四月は月間七十万円を売り上げた。以降は沈静化したものの、初年度四百万円という目標はクリアできそうという。

ただ補助金が切れる平成十八年度以降も継続するには、売り上げを大幅に伸ばす必要がある。そのために、営業時間延長も検討している。「七時頃まで営業すれば、勤め帰りのサラリーマンも気楽に立ち寄れるはず」と柳沢理事長。現に、話

生産者の顔が見える商品

アクティブ商店街事業が対象とするのは、「桃太郎」以外にも、「地元産」の野菜や果物を生産者の顔が見える花・鉢物・野菜等の展示販売。特に下井草商店街

このほかホームページ「ザ・下井草」、買い物支援ボランティア事業が対象となっている。地域の資源を活用することで、下井草商店街ならではの話題づくりを続けている。



「桃太郎」には親子連れの姿も目立つ



店内には数百にのぼる商品が所狭しと並び



店頭にはベンチを設置してある